

再評価

資料 1-6
関東地方整備局
事業評価監視委員会
(平成16年度第4回)

富士川直轄河川環境整備事業 (利用推進事業)



平成 17年1月27日

国土交通省関東地方整備局

富士川直轄河川環境整備事業(利用推進事業)

< 再評価資料 >

目 次

1 . 富士川流域の概要	1
2 . 富士川の概要	2
3 . 富士川の河川環境	3
4 . 富士川の河川利用実態	4
5 . 富士川空間管理計画	6
6 . 水辺利用に関する課題	8
7 . 富士川環境整備事業箇所	9
8 . 整備事例(1) 田富町水辺の楽校	11
9 . 整備事例(2) 、 、	12
10 . 整備事例(3) 増穂地区水辺環境整備	13
11 . 整備事例(4) 、	14
12 . 費用対効果分析	15
13 . コスト縮減に向けた取り組み	19
14 . 今後の対応方針(原案)	20

1. 富士川流域の概要



のこぎ
 水源: 鋸
 (標高2,68)

流域面積: 3,990km²
幹川流路延長: 128km
流域内人口: 1,135千人
流域内市町村: 10市20町村

- ・ 富士川は3,000m級の急峻な山々に囲まれ、「日本三大急流」の1つに数えられています。
- ・ 流域は良好な自然環境を有しており、多種多様な生物の生息・生育空間になっています。



2. 富士川の概要

上流部



扇状地にあたり川幅も広く、礫河原がいたるところに見られる。

(山梨県南アルプス市)

上流部
(笛吹川)



万力林及び霞堤等の歴史的治水工法があり、自然が多く残っている。

(山梨県山梨市)

中流部



山間部を蛇行しながら流れる。高水敷は少ない。

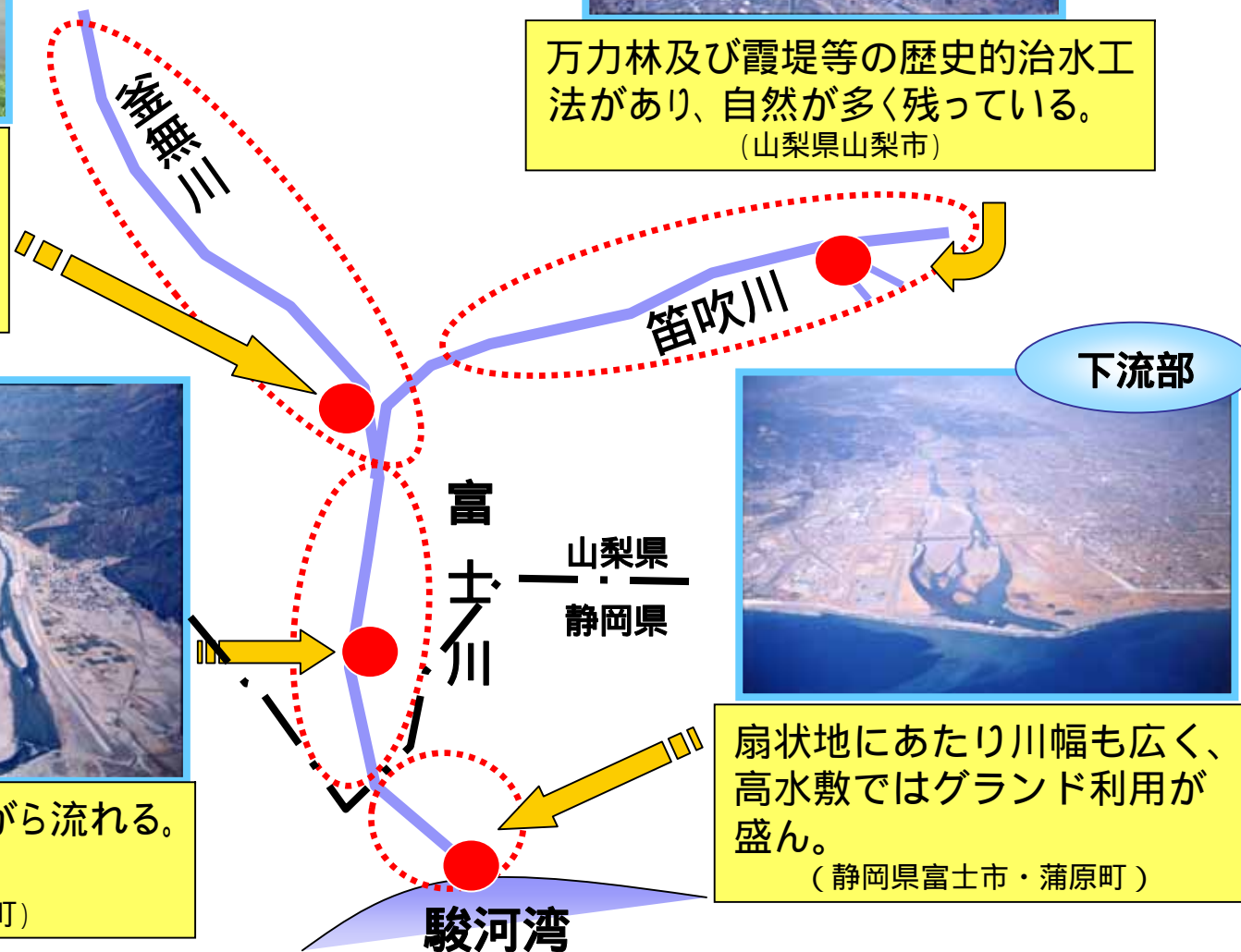
(山梨県身延町)

下流部



扇状地にあたり川幅も広く、高水敷ではグランド利用が盛ん。

(静岡県富士市・蒲原町)



3. 富士川の河川環境



釜無川(山梨県南アルプス市)



釜無川(山梨県甲斐市)



オイカワ



コアジサシ



カワセミ

富士川を代表する生物



カラヨモギ



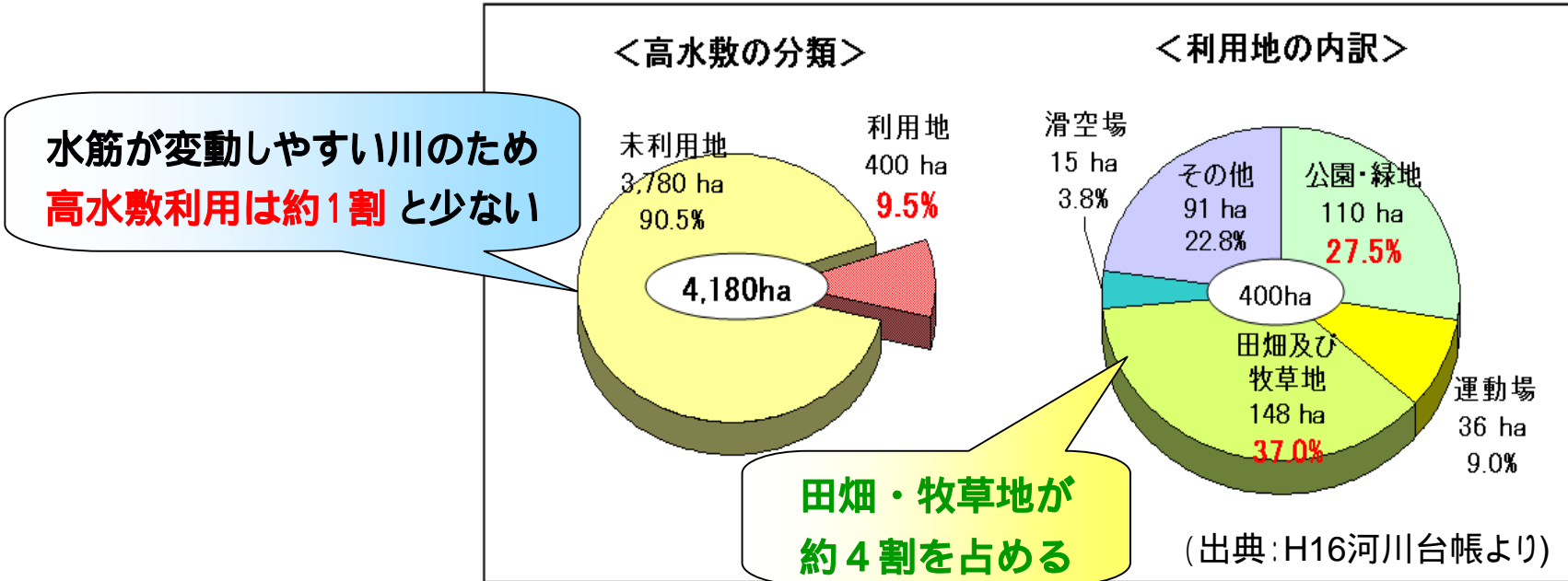
ヤナギ群落



富士川(山梨県南部町)

4. 富士川の河川利用実態

高水敷の利用形態



田畑

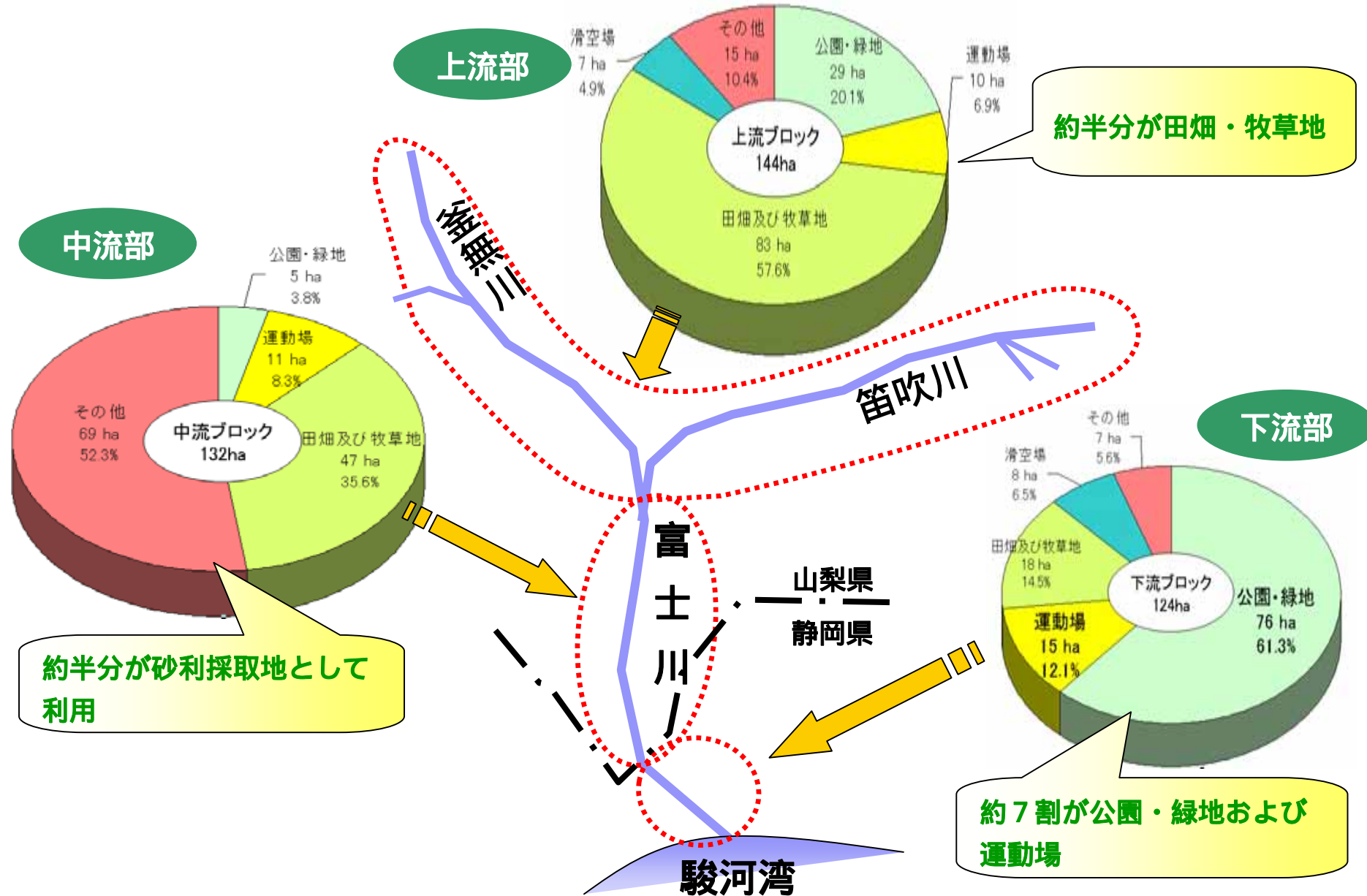
富士川(山梨県鯉沢町)



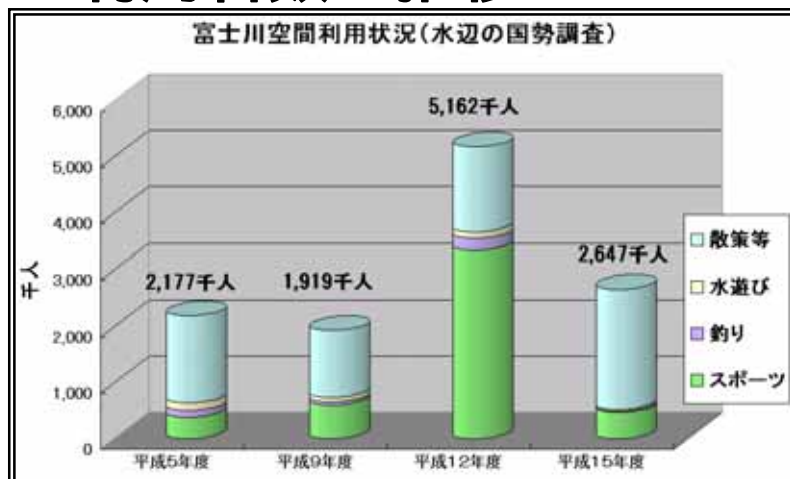
グラウンド

富士川(静岡県富士川町)

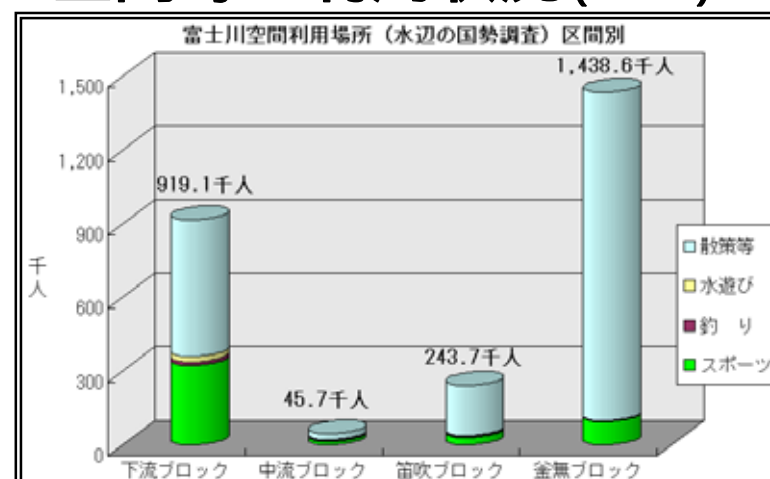
ブロック別高水敷の利用形態



利用者数の推移



区間毎の利用状況(H15)



散策利用

笛吹川(山梨県笛吹市)



スポーツ

富士川(静岡県富士市)



カヌー教室

富士川(山梨県鯉沢町)

- ・散策等に多くの人を利用。
- ・中流部は利用者が少ない。

- ・河川利用は、増加傾向にある。
- ・水遊びつり等の水辺利用は少ない。

5. 富士川空間管理計画

富士川では、河川空間の保全と利用を適正に行っていくため、『富士川水系河川空間管理計画』を策定し、下記のとおり河川空間区分を設定。

(河川空間区分)

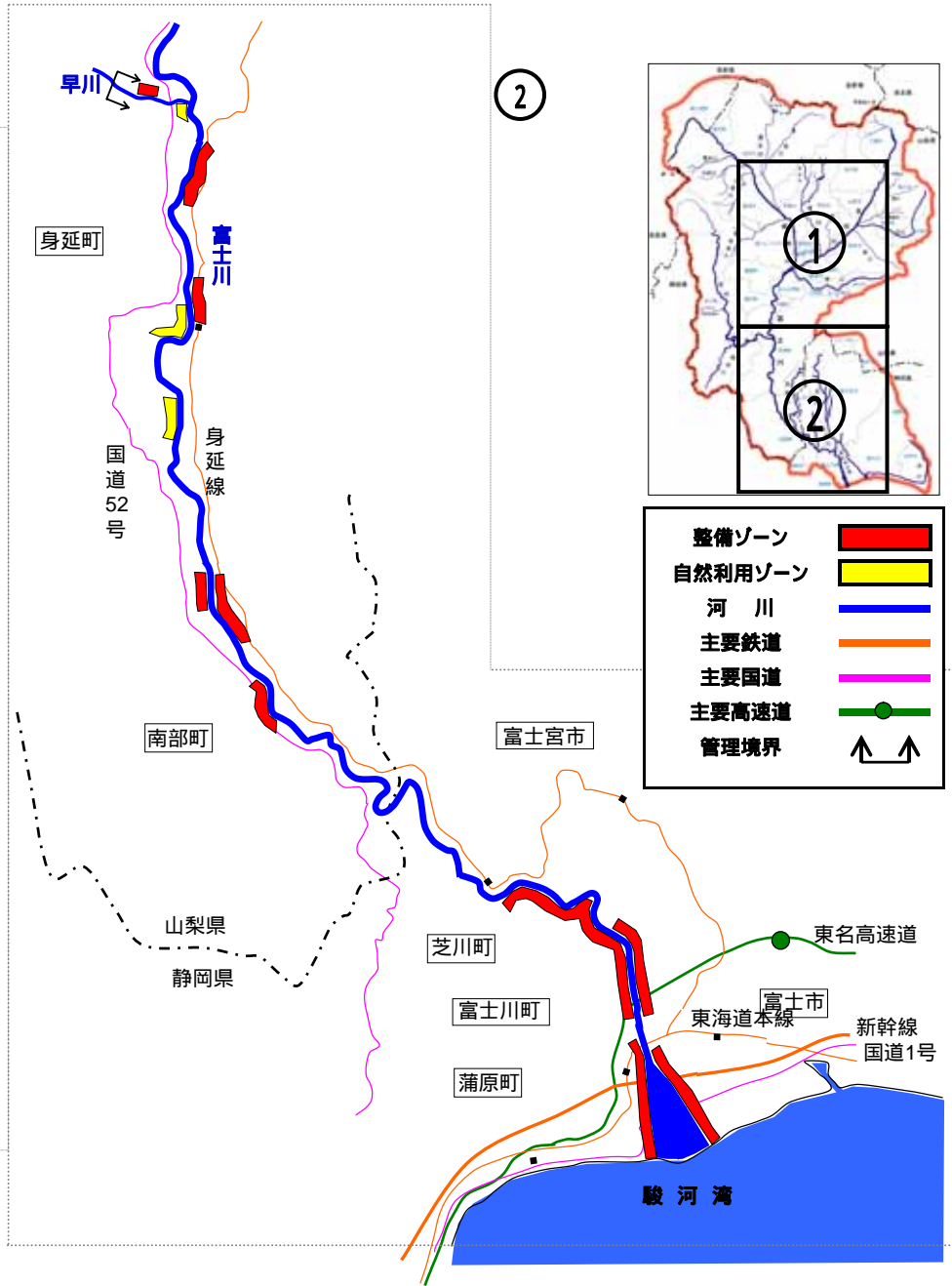
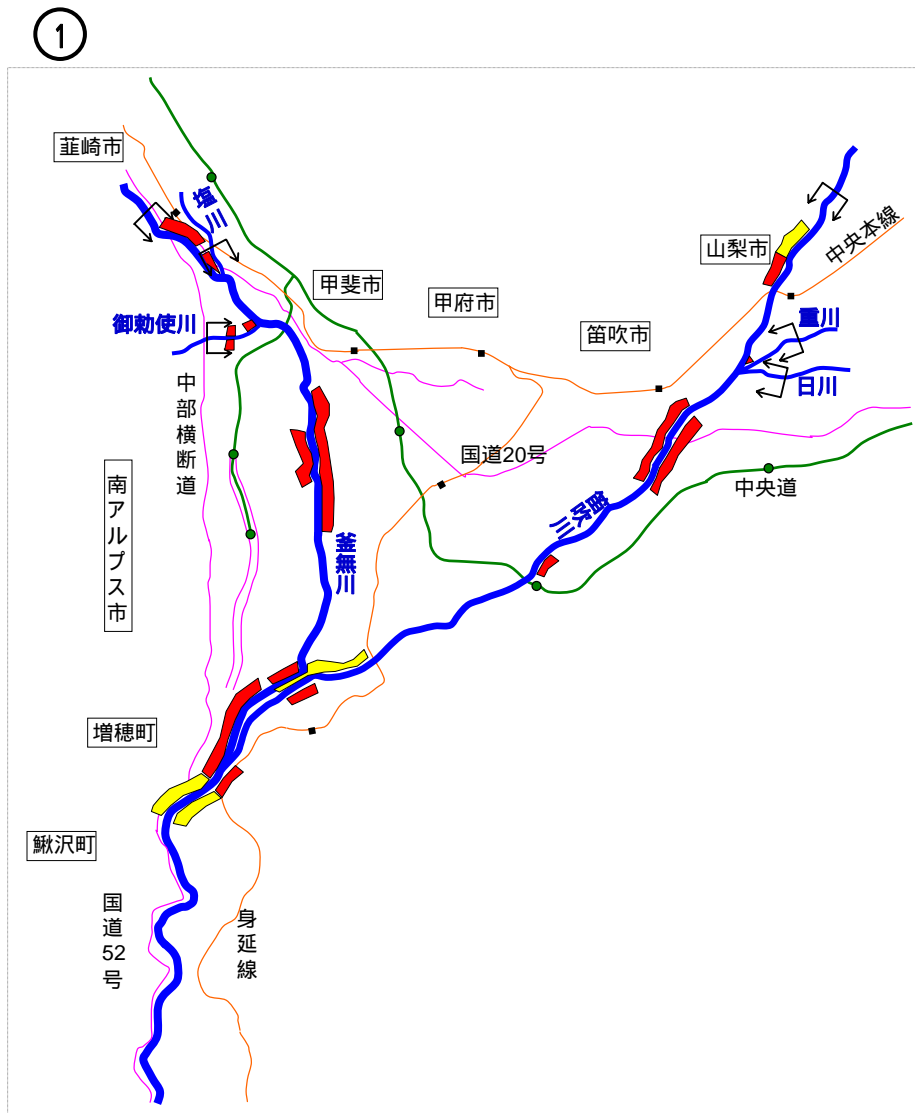
1. 自然利用ゾーン

自然環境や景観を生かし、自然観察や野草広場など、準自然的な環境を保全しつつ、自然指向のレクリエーション活動ができる場

2. 整備ゾーン

高水敷や河岸を活用し、多目的広場、公園など、各種レクリエーション、スポーツ活動の場

富士川空間配置計画位置図



6 . 水辺利用における課題

8

富士川の水辺には豊かな自然が見られるが、水際が削られたり、段差があるため、**手軽に水辺とふれあえる場所が不足**

グラウンドや住宅地の近傍の高水敷でも植生が繁茂し、**安心して水辺まで近づけない場所が多い**

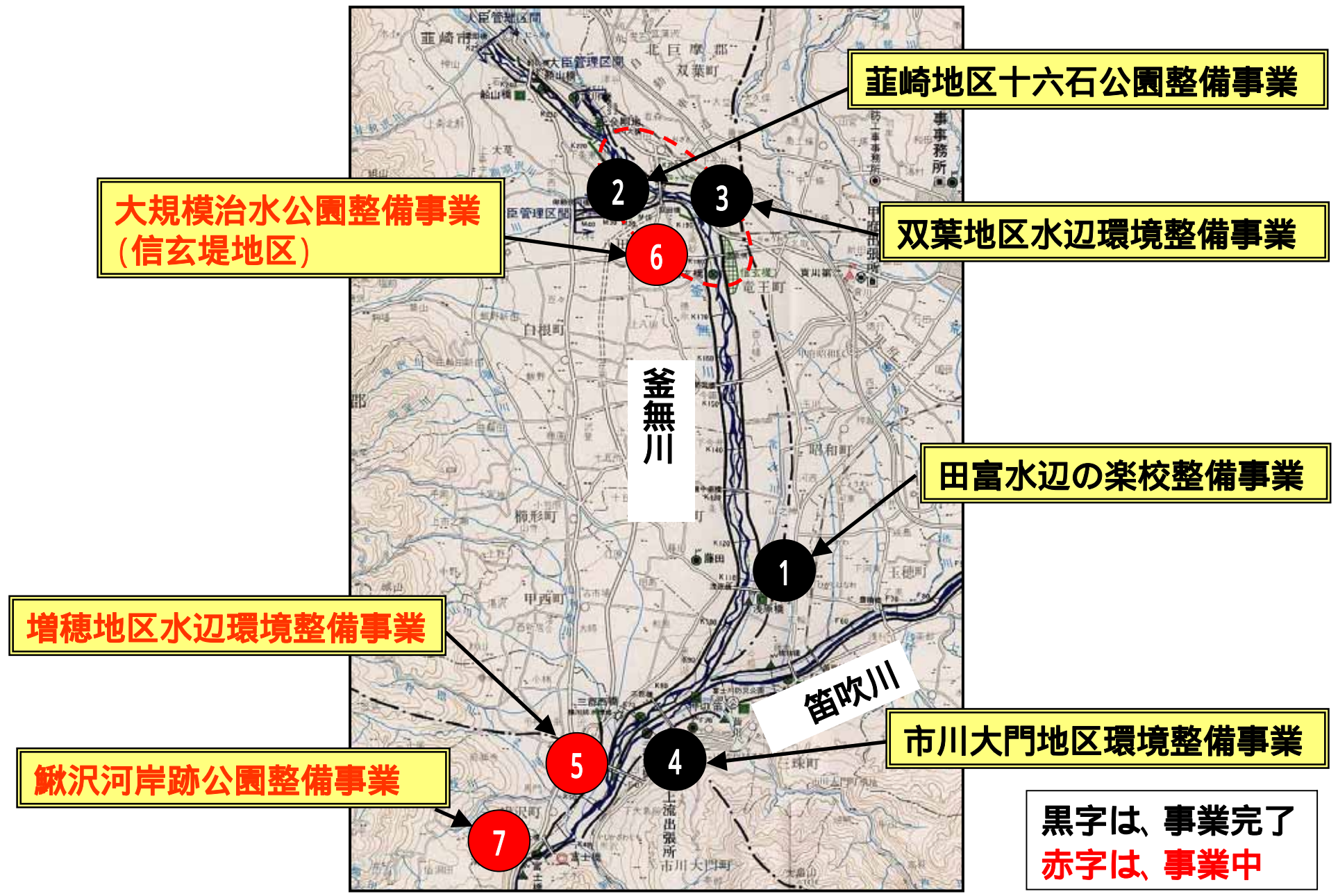


富士川(山梨県増穂町)



釜無川(山梨県南アルプス市)

7. 富士川環境整備事業箇所



整備箇所の事業内容

No.	河川名	事業名	市町村	事業期間 (年度)	整備内容	事業費	関連事業
	釜無川	田富町水辺の楽校	山梨県田富町	H11	親水護岸 (ワンド含む) 案内板	約0.8億円	田富町水辺の楽校 検討委員会
	釜無川	韭崎地区十六石復元	山梨県韭崎市	H7～10	高水敷整正 十六石復元 案内板	約1.4億円	韭崎地区公園整備 事業
	釜無川	双葉地区水辺環境 整備	山梨県甲斐市	H12～15	高水敷整正 散策路 せせらぎ水路	約2.4億円	双葉水辺公園整備 事業
	笛吹川	市川大門地区環境 整備	山梨県市川大門町	H13～15	緩傾斜スロープ 階段護岸	約1.5億円	笛吹川多目的広場 整備事業
	釜無川	増穂地区水辺環境 整備	山梨県増穂町	H15～21	親水護岸 高水敷整正 散策路 緩傾斜スロープ	約7.1億円	富士川増穂水辺 プラザ整備事業
	釜無川	大規模治水歴史 公園整備	山梨県南アルプス市 山梨県甲斐市 山梨県韭崎市	H14～24	散策路 親水護岸 緩傾斜スロープ	約4.5億円	信玄堤公園整備事 業
	富士川	鯉沢河岸跡公園整備	山梨県鯉沢町	H10 H16～20	高水敷整正 親水護岸 散策路	約4.0億円	富士川鯉沢河岸跡 公園水辺プラザ整 備事業

黒字は、事業完了
赤字は、事業中

8. 整備事例(1) 田富町水辺の楽校



9. 整備事例(2)

韮崎地区十六石復元



双葉地区水辺環境整備



市川大門地区環境整備

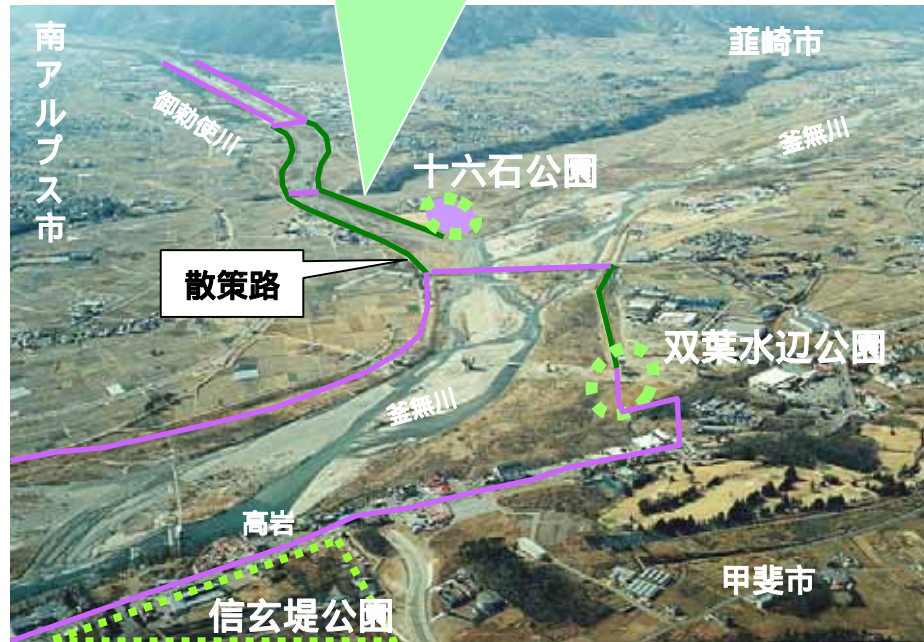


11. 整備事例(4)

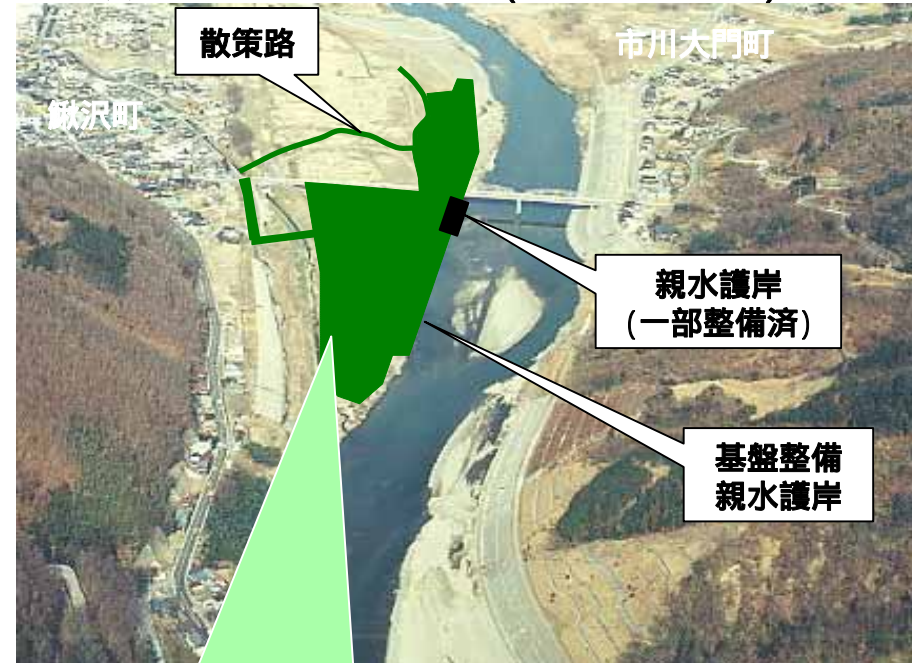
大規模治水歴史公園整備



散策路整備(イメージ)



鯉沢河岸跡公園整備(一部整備済)



多目的広場整備(イメージ)

12. 費用対効果分析

計測手法：CVM法（仮想市場法）
計測WTP：負担金の支払い意志額

【アンケートの内容】

富士川・釜無川・笛吹川の河川環境整備の整備費及び施設の維持管理費に対して、1ヶ月いくら負担できますか。

沿川32市町村の4,270世帯に配布（全体世帯数：約35万世帯）
うち有効回答世帯数 1,178世帯（配布数の約27.5%）

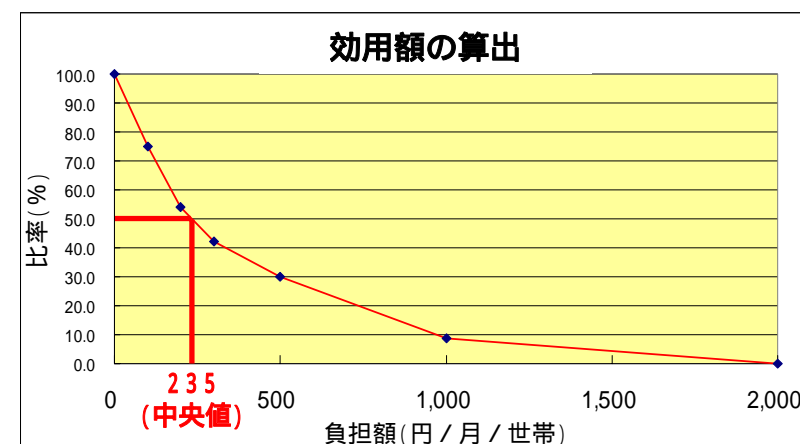
沿川市町村数は、平成16年8月31日現在

全世帯数は全国市町村要覧(平成15年度版)の数字

アンケート調査結果

効用額：235（円/月/世帯）

金額は、有効回答者の中央値



CVMの帰着範囲の設定

- ・富士川沿川では、地形条件や土地利用上の制約などから河川から概ね6 km内に人口が集中。
- ・よって、今回便益の算定にあたっては、事業箇所より半径6 kmの範囲に含まれる市町村を帰着範囲に設定し、世帯数を算定した。

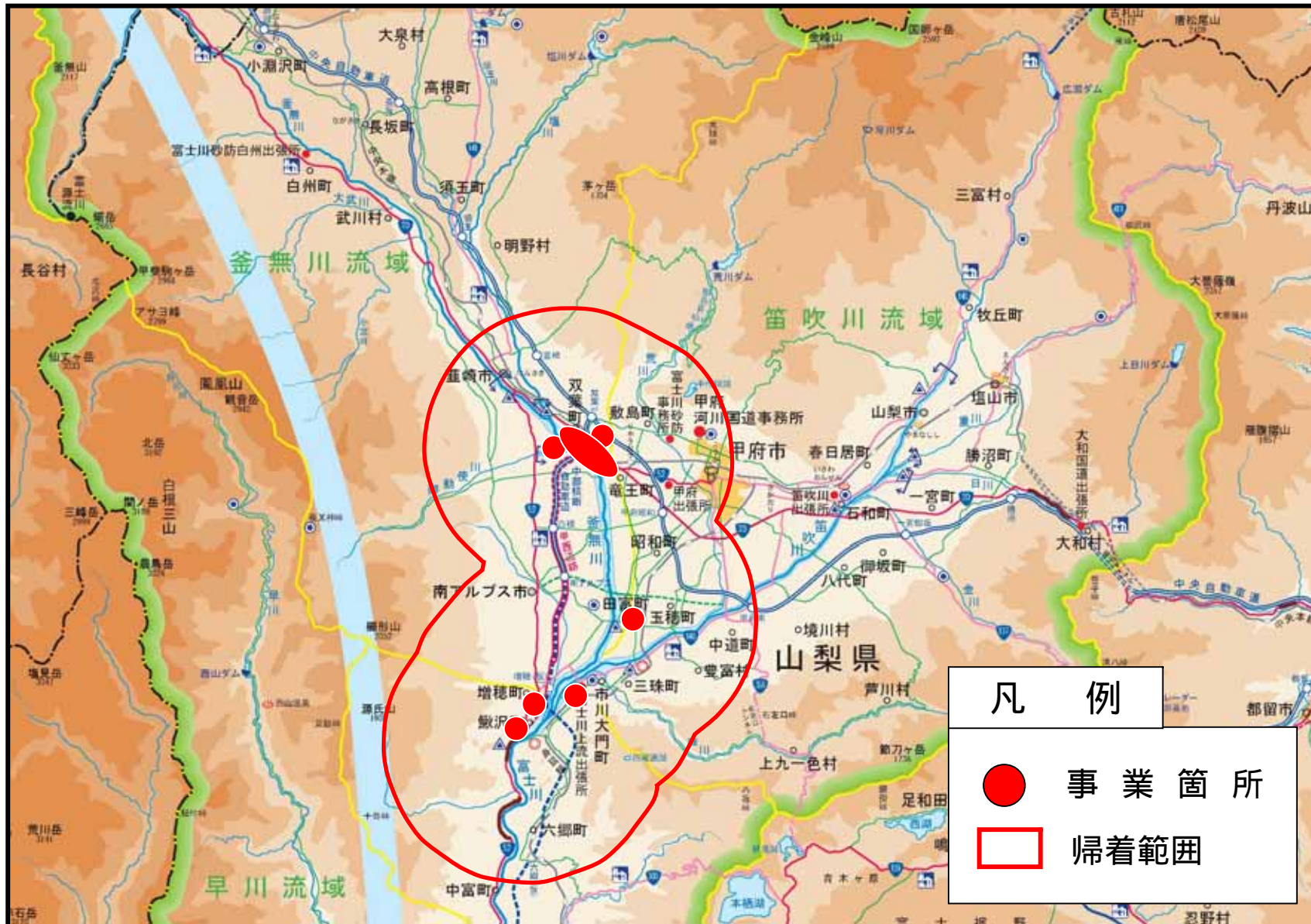
対象となる主な市：甲府市、韮崎市、南アルプス市、甲斐市



年効用額 = 235 (円/月/世帯) × 12 (ヶ月) × 154,263 (世帯)

435 (百万円)

CVMの帰着範囲



費用便益比

評価期間を50年とし、
現在価値化を行った

18

総便益 約88.6億円

利便性・安全性の向上

環境教育・自然体験活動の推進支援

地域振興・活性化支援

水辺や自然とのふれあう機会の充実

歴史的治水施設の後世へ継承

総費用 約22.4億円

整備費用(維持管理費含む)

費用便益費

総便益 / 総費用 = 88.6億円 / 22.4億円
3.95

13. コスト縮減に向けた取り組み

親水護岸の整備においては、現地採取可能な材料を有効に活用し、コスト縮減を図ります。

かご工法の中詰め石



富士川(山梨県六郷町)

材料は現地で採取します



釜無川(山梨県南アルプス市)

(延長1m当たりでの比較)

割栗石購入 : 70,560円 / m

現地採取 : 65,595円 / m

縮減率 : $(70,560 - 65,595) / 70,560 = \text{約}7\%$

上記は富士川の一例であり、各河川で異なる

14. 今後の対応方針(原案)

事業の必要性に関する視点

富士川では、高水敷に植生が繁茂し**安心して水辺まで近づけない場所**や、**手軽に水辺とふれあえる場所が不足**しており、河川利用推進のため水辺拠点の整備が望まれています。

事業進捗見込みの視点

整備計画作成時に沿川自治体・河川利用者及び学識経験者の意見を伺っており、事業推進にあたっては、**特段支障はないもの**と考えています。

対応方針(原案)

継続が妥当と考えています。

沿川自治体と連携のもと、引き続き事業を推進してまいります。